

【ポスター発表】

保育現場でのソーシャルワーク専門職による支援の一考察

ーソーシャルワーク専門職の支援概念の分析ー

○ 比治山大学短期大学部 氏名 鶴田 智子 (会員番号 009385)

保育現場 ソーシャルワーク 支援者支援

1. 研究目的

近年、子育て世帯の孤立、経済的不安、育児不安などから子育て支援の向上が喫緊の課題となっている。就学前の保育を担っている保育所等においても、多様で複雑な困難を抱える保護者への支援について、対応内容に苦慮する場合も少なくない。保育現場ではソーシャルワーク(以下SW)の視点は重要であり、人や環境に働きかけることによって、子どもの最善の利益、その家族のウェルビーイングの向上に寄与すると考える。

鶴田(2019)では、所内の保育者によるソーシャルワーク的支援の実態を変容プロセスから明らかにし、田邊(2022)は、保育現場における所外のキンダーソーシャルワーカーによる実践について研究がなされている。現場でSWを担う者の実践が少しずつ明らかになってきているが、その支援概念については、明らかにされていない。本研究は、SW専門職による支援概念について明らかにすることを目的とし、保育現場が必要としているSW支援について考察する。

2. 研究の視点および方法

本研究は、保育現場におけるSWの活用とその効果について、SW専門職のインタビューを元に概念を生成し、その効果と課題について明らかにすることを視点とする。

研究対象者は、定期的に保育機関に訪問しているSW専門職の4名で、経験年数等は以下の表のとおりである。調査期間は2024年8月から2024年11月である。なお、調査方法は、半構造化面接で行い、以下のインタビューガイドに沿って実施した。質問項目は、第一に今までのSWと保育SWの相違点と類似点、第二に保育SWの中で、一番解決に近づいた(解決した)事例、第三に保育SWの中で、一番困難だった事例について流れに応じて質問した。インタビューは概ね60分程度であり、対象者の許可を得て、ICレコーダーで録音した。

表2 インタビュー対象者の属性

	所属	子ども家庭分野の SW 経験年数	社会福祉士の活 動年数	R6 年度担当園
G	株式会社・教育委員会	20	20	10
H	個別委託契約・教員	30	20	27
I	NPO 法人	15	13	12
J	教育委員会	28	20	6

インタビューの収集場所は、それぞれの職場にある会議室で行った。分析方法は、録音データを逐語録にし、佐藤(2008)の質的データ分析法に沿って個別のセグメントを作成後、4人のセグメントの類似的な内容を統合し、オープンコードを生成し、焦点コード、カテゴリーを順に生成した。

3. 倫理的配慮

調査協力機関及び調査協力者には調査の趣旨を説明した後、匿名性の保持等について書面で説明し、調査協力の可否は任意とし、同意を得てインタビューを実施した。なお、本調査は、比治山大学・比治山大学短期大学部研究倫理委員会による審査・承認を得て実施した(申請番号2405)。また、開示すべき COI 関係にある企業・組織および団体等はない。

4. 研究結果

インタビュー結果で得たデータから 85 のオープンコードを抽出し、オープンコードを 29 の焦点コードに集約した。次に焦点コードから以下【保育 SW の独自性】【保育 SW 派遣事業の現状と課題】【保護者支援の視点は背景と環境】【SW 視点はコンサルテーションに必要】【感情労働である保育業務の難しさ】【子ども家庭問題の見立ての弱さ】【保育者が弱音を吐けない】【人材育成の場づくりと環境構成】【多様な業務の疲弊に組織の脆弱性】【保育 SW ののりしろと保育者との協働】の 10 のカテゴリーを生成した。

5. 考察

SW 専門職は、保育現場で【感情労働である保育業務の難しさ】【子ども家庭問題の見立ての弱さ】【保育者が弱音を吐けない】【多様な業務の疲弊に組織の脆弱性】という困難さを熟知することで、【SW 視点はコンサルテーションに必要】【保護者支援の視点は背景と環境】【人材育成の場づくりと環境構成】【保育 SW ののりしろと保育者との協働】が重要であることをもとに、【保育 SW の独自性】があること、一方で【保育 SW 派遣事業の現状と課題】を実感していることが明らかになった。

10 のカテゴリーから、以下 2 点の示唆を得た。1 つ目は、SW 専門職からみる保育現場での困難さや支援の必要性は、保育者への支援であり、支援者である保育者の課題現状が中心となっていた。保育現場では、子どもと保護者のケアをする業務の保育者自身の支援が必要であっても、弱音がはけず孤立しやすい。保育者支援が、結果保護者やその家庭の支援につながることを重要視していた。2 つ目は SW 専門職が行う保護者の支援について、背景と環境に視点を置いた支援が行われていることが示唆された。保育現場における保護者支援には、子育てに関する助言だけでなく、ソーシャルワーク視点の重要性が示された。

引用文献

- ・佐藤郁哉(2008) 質的データ分析法 新曜社
- ・田邊哲雄(2022)幼稚園におけるソーシャルワーカーの活用と実際
: 認定こども園におけるキンダーソーシャルワーカーの実践 湊川短期大学紀要.58 pp67-71
- ・鶴田智子(2019)保育所におけるソーシャルワーク的支援の可能性—問題を抱える家庭を支援する保育士の変容プロセス-.子ども社会研究.25;pp85-105.